

各務原市青少年育成市民会議 通学路見まもり隊(各務原市)

～地域の子は、地域で守り育てよう～

【団体のプロフィール】

代 表 者	森 真 (各務原市長)
結 成	平成16年4月から
活 動 人 数	(結成当時) 348人 / 市内先行2小学校区 (平成20年7月末現在) 約3,550人 / 市内全地域
メンバ- 構 成	シニアクラブ、子ども会保護者、PTA役員・委員、一般保護者、自治会、 一般市民ボランティアなど



(見まもり隊と児童と保護者との交流)



(感謝の気持ちを伝える会
工夫を凝らして全校で行いました)

【活動のきっかけ】

- 平成16年4月、蘇原第一・第二小学校区の市民348名が登録してスタートした「通学路見まもり隊」は、現在、各務原市の全小学校区での活動となり、約3,550名に登録いただいている(平成20年7月末現在)。
通学路見まもり隊の活動は、各務原市青少年育成市民会議の事業の中の一つ、「語らい」と「ふれあい」のあるまちづくりの取組として始まった。
その背景には、全国で子どもが犠牲となる事件が起こり、各務原市においても不審者情報が多数報告されているという状況の中で、地域でのかかわりを作っていくことが必要であると考えたからである。
- 発足5年目になる現在も、「家族や地域の絆を深め、地域の子は、地域で守り育てる」という視点に立ち、青少年が地域の人々とふれあい、安心して生活できるコミュニティー作りの一環として活動を継続している。

【活動を始める際に用意したもの、最初の相談先】

用 意 し た も の	<p><子どもの見守り活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 通学路見まもり隊ジャンパー、隊員証、推進ガイド【市で負担】 ※ 現在は、上記の物品に加え、「腕章の配布」と「希望者に対して保険の加入」を行っている。また、校区によっては、帽子などの物品を作成し、活用しているところもある。
最 初 の 相 談 先	<p><子どもの見守り活動></p> <p>青少年育成市民会議、リードできる小学校及び自治会連合会・小学校区市民会議</p>

【活動区域、活動内容】

活動区域	各務原市内全域(小学校区ごとに活動を取りまとめて展開している。)
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの見守り活動【随時】 出来る時に出来る範囲での自主的な活動とし、自宅から学校までのウォーキングや散歩を通しての見守りであったり、通学路の危険箇所立っての見守りなどが行われている。 ・ 「通学路見まもり隊対面式」の開催【春先】 小学生と見まもり隊との顔合わせや、保護者や教職員への周知を図っている。 ・ 「通学路見まもり隊ふれあい交流会」の開催【主に秋から冬にかけて】 各小学校で、通学路見まもり隊同士の情報交換や今後の活動方針などについて話し合いをしている。中には、小学校で行われている通学班会にも参加して、地区の子どもたちと地区担当の教職員・保護者とともに、通学路の安全確保に取り組んでいるところもある。また、運動会や発表会などの学校行事や感謝の気持ちを伝える会に、見まもり隊が招かれ、子どもたちとの交流を深めている。



(通学路見まもり隊ふれあい交流会
みんなで地図と写真で地域の安全確認)



(小学校で開催された通学班会に参加。
地域の子と地域の見まもり隊と地域担当の先生と)

【活動を継続的に行うために工夫していること】

- ・ 「できるときに できることを 楽しんで」を基本としながら、無理の無い活動をお願いしている。
- ・ また、地域の実態を大切に活動に心がけ、市民会議の推進委員長指導員会や見まもり隊交流会、地域での小学校区市民会議総会等の場を生かして、活動の交流や情報の共有を図ることで少しずつでも活動を見直し改善をしている。
- ・ 見まもり隊員の意識を高め、意思の確認を行うためにも、年度切替時に見まもり隊への登録更新確認を行ってきたが、ここ数年は、夏季の活動時に着用する「通学路見まもり隊 腕章の配布」や「ボランティア保険の加入」の希望確認時としている。

【これから活動を始めるボランティアの皆さんへのアドバイス】

- ・ 組織的に動ける方、なかなか定期的には難しい方、年間を通して継続して行っていただける方など、隊員の状況や地域性は多様です。取組をリードし、指導される方は、先進的な取組の紹介や方向付けを行いながらも、各校区の市民会議や各見まもり隊員の意思を尊重して取り組むことが大切です。
- ・ 防犯パトロールとしての動きよりも、地域での語らいふれあう活動としての取組を大切にすることで、活動にもゆとりができると考えます。
- ・ ただし、現在の社会情勢を考えると、やはり1人でも多くの見まもり隊員の支えが必要であり、そうした活動を作り出すための具体的な取組は欠かせません。子どもを中心に置き、学校や保護者と連携することで、お互いに理解し合える活動になると思います。
- ・ 特に、「わが子の安全」を確保するための活動ということを考えると、人任せにしない「保護者の動きづくり」は、大きな課題です。